

# 灯 (あかり)

玉之浦小中学校だより

第 8 号  
令和4年7月5日



ネムノキの花の季節が巡ってきた。漢字で表すと「合歓木」：この字面だけで優しい気持ちになれます。ネムノキはマメ科の植物で、秋の早い時期から葉を落とし、枯れ木状態の期間が長いので、「眠る木」から「ネムノキ」になったという説があります。通い慣れた通勤路ですが、桃色と白色のグラデーシヨンのかわいい花を楽しんでいます。

## 玉之浦っ子の心をみつめる教育週間

「ご来校、ありがとうございます」  
6月27日(月)～7月3日(日) 「玉之浦っ子の心を見つめる教育週間」を設定しました。今年度は、保護者ならびに学校支援会議委員の皆様限定での学校開放にしました。(9月18日(日)に予定している運動会では、地域の皆様にもお声かけができることを願っています)

全県的に取り組まれてる「心を見つめる教育週間」の目的は：

- 主題を「心豊かな長崎っ子の育成」とし、
  - ① 命を大切に作る心や思いやりの心の育成
  - ② あこがれや将来への志の育成
  - ③ 挨拶やマナーの向上とされています。
- 週間中、本校では：

- ① 週間中の開放・参観
  - ② 全校朝会(校長講話)
  - ③ 道徳公開授業
  - ④ 親子球技大会
  - ⑤ 救急救命講習
- ：などの取組を行いました。今号は、それぞれの取組の様子を中心にお伝えします。

### 【日曜参観日】道徳公開授業&親子球技大会



中学3年生

7月3日(日)を日曜参観日として、道徳の授業の公開、親子球技大会を行いました。  
【道徳公開授業】  
1校時に小学校、2校時に中学校が道徳の授業を公開し、多くの保護者の皆様に参観していただきました。題材はすべて「命」に関わるものでした。  
(中3の授業から)ある中学生の作文『東日本大震災で家族を亡くしたおばあさんが』

「自分だけが生き残ってしまった」と嘆く姿から、「懸命に生きていこう」と変化していく様。そして、自らが被災してい



【親子球技大会】  
運動場で行う準備をしていましたが、雨が降り始めたので、急遽、体育館での開催に変更しました。8コートに分かれて予選スタート。元気な歓声や笑い声、拍手が体育館に響きました。各コートの優勝チームか

なで子どもを育てるといって、長崎県独自の県民運動で、7月・11月を強調月間としています。加えて「大人が変われば子どもも変わる」を掲げ、「子どもは社会を映す鏡であり、もし子どもに問題があるとするれば、それは大



ら1名が代表で決勝へ。決勝は、誰がビュット(黄玉)に近づけられるかの1投勝負で、楽しい時間を過ごしました。(豪華商品あり!)  
今回の球技大会は、前日からPTA生活保体部の皆様から閉会式の挨拶に立った川脇部長様からは、「部活動をはじめ、学校にできるだけ足を運びましょう。」と、呼び掛けもしていただきました。皆様、お疲れ様でした。



### ココロなつこ運動

子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんな

このような口ゴマークを目にしたことがありませんか？

人自身の問題として考えなければならぬ」としています。また第3日曜日の「家庭の日」は、仕事・各種大会などの外部の催し物・部活動を控えて、家族で過ごす時間を優先する日として設定されています。

# 救急救命講習会



6月30日(木)、今年度も小学5・6年生、中学生を対象に、五島市消防本部岐宿出張所の皆様のご指導による救急救命講習会を開きました。

「万が一の時、誰かの命を救う存在になろう」として、倒れている人を発見したときの行動や胸骨圧迫による蘇生法、AEDの使い方などを教えていただきました。せっかく身につけた技術も、時間が経つと忘れていくものなので、繰り返し学び直すことにも大きな意味があります。夏の水難事故



た。実際に年間を通じて救急救命処置が必要な場面は多く、自宅家族の命を救った事例もあります。子どもたちは「大切な人の命を守る存在」にもなってくれるはず。



本校の敷地内には、よく見かける場所の一つが、土手のサツキの生け垣で

# 土手の板垣が完成



マムシと、アオダイショウ



本校の敷地内には、よく見かける場所の一つが、土手のサツキの生け垣で

よく見かける場所の一つが、土手のサツキの生け垣で



ぎ、見通しもよくなったので、ヘビが移動しにくくなり、身を潜める場所も減りました。また国旗掲揚台横にも延長してもらったので、土手の緑に板垣と校舎の白が映え、景観に統一感が増しました。

# 全校朝会校長講話

心を見つめる教育週間

6月27日(月)心を見つめる教育週間の初日に全校朝会を開き、子どもたちに話をしました。心を見つめる教育週間の取組がなぜ行われているのか、過去に長崎市や佐世保市で起きた悲しい事件のことにも触れて説

明しました。ここで、イルカの「まあるいいのち」という曲を歌いました。

♪みんな同じ 生きているから 一人にひとつ大切な命：♪

「命や自由、生活を守るために、戦争が必要だ」と国民に説明しながら、

多くの国が戦争をしてきた歴史があります。しかし、戦争が始まれば、守るはずの多くの命が奪われることは、子どもの君たちにも分かることです。数年、十数年には君たちも大人の仲間入りします。「一人にひとつ大切な命」があることを、いつも忘れない大人になつて欲しいと願っています。

講話の後半のキーワードを「他人事にしない」にしました。6月23日(水)沖縄県は慰霊の日でした。20万人以上の命がわずか3か月の間に奪



われしました。またウクライナからは、犠牲者や被害のニュースが毎日届きます。4か月以上経ちますが、終わりが見えません。遠い過去や、遠い場所での出来事なので、自分のことのように感じて、考えることは難しいことです。しかし、せめて「他人事にしない」で欲しいと願っています。

「他人事にしない」と答えています。自分のことのように声を上げて、自ら問題解決に動き出すのは、大きな勇氣が必要な時もあります。せめて「他人事にしない」人たちが周りにいてくれたら、いじめを受けている人を支え、解決の糸口

を探すことができるはず。最後に、ジョンレノンの「イマジン(Imagine)」を歌いました。英語のまま歌いましたが、子どもたちには訳詞を見ながら聞いてもらいました。「想像してごらん」と： but I'm not only one I hope someday you'll join us 「他人事にしない」は、決して消極的な態度ではありません。一人じやないというメッセージを送り、小さな勇氣を集めて大きな力にすることができると信じます。

# ジュニア俳壇

6月27日(月)長崎新聞に掲載された作品です。

- 卒業式満開の桜で送れたよ 中3 中村和志
- 梅の実採りゆつくりと進む蝸牛 中1 出口清悟